

2022年6月26日(日)メッセージアウトライン 「主が来られる時を待ち望みつつ」

聖書箇所：ヤコブの手紙5：7～20

タイトル：「主が来られる時を待ち望みつつ」

テーマ：

今日はヤコブの手紙の最終回ということでお話をさせていただきます。この手紙の著者ヤコブは、本日の箇所で「主が来られる時を待ち望みつつ」どのように主に従って歩み通したらよいかをまとめて語っています。

今を生きるクリスチャンは、何に希望を持って生きているのでしょうか。

新約聖書の書簡は一部の手紙を除いて(別のテーマを扱っている)その著者は、一様に主イエスが再び来られることを待ち望んでいます。

私たちも、主イエスが必ず再び来られるという約束がいつ成就するのかを待ち望んで、その日に備えて、主に従って歩んでいるのでしょうか。

ヤコブが主が来られる時を待ち望みつつ、日々をどのように過ごすよう説いているかを改めてチェックして、同じ希望を持つ者として、自らの信仰の歩みを確認しておきましょう。

確認事項

1. あなたは主が来られる時を心から待ち望んでいますか？(7, 8節)

- *主が来られる時——ギリシア語でパルーシア(栄光のメシアの到来、来臨、出現)
聖書の中で、「キリストの日」、「終わりの日」、「主の日」、「贖いの日」、「神の日」などイエス様ご自身の約束として——ヨハネ14：3、マルコ13章参照

2. 耐え忍びなさい(7～11節)

- *ヤコブは農夫の例を挙げて忍耐について説明している。
- *互いに文句を言い合うのはやめなさい。さばきを行なう方が戸口のそばに来ておられます。私たちは言葉を制御し、管理しなければなりません。
- *主の御名によって語った預言者たちがどれほど苦しめられ迫害されたか、でも彼らは主からのみ言葉を忠実に語りとおしました。彼らを模範としなさい。
- *あなた方はヨブの忍耐のことを知っているでしょう。

3. 誓うことをやめなさい(12節)

- *レビ記19：12 「あなたがたは、わたしの名によって偽って誓ってはならない。そのようにして、あなたの神の名を汚してはならない。わたしは主である。」
- *出エジプト記20：7 「あなたは、あなたの神、主の御名をみだりに口にしてはならない。主は主の御名をみだりに口にする者を罰せずにはおかない。」

特にこの当時のパリサイ人たちの偽善的言動をイエス様は厳しく指摘しておられました。言行不一致な者の誓いはかえって神の御名を汚すことになるのです。

私たちは言葉と行いが一致する者として、「はい」は「はい」、「いいえ」は「いいえ」とだけ言えばよいのです。そうすれば裁かれることはありません。

4. 祈りなさい、祈ってもらいなさい、互いに祈り合いなさい（13～18節）

*「苦しんでいる人がいれば、その人は祈りなさい。喜んでいる人がいれば、その人は賛美しなさい。」 苦しい時も喜びの時も心に向ける相手は主なる神です。

*「病気の人がいれば、教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい。信仰による祈りは病んでいる人を救います。」

*旧約の預言者エリヤの例

神の忠実な預言者として用いられたエリヤの祈りの例が記されています。彼が祈ると雨は降らず、彼が祈ると雨が降りました。神に従い通す者の祈りはきかれたのです。

5. 真理から迷い出た者を連れ戻す人（19、20節）

*「真理」とは何でしょう。イエス様ご自身が、「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれも父のみもとに行くことはできません。」

（ヨハネ14：6）と語られました。イエス様こそ「真理」そのものであります。このお方から離れていく人は、再び罪の生活に逆戻りしてしまいます。この様な人々の行き着く先は、永遠の滅びです。

良き羊飼いでられるイエス様は一匹の羊さえも滅ぶことを良しとはされませんでした。探し出して群れに連れ戻してくださいました。教会の誰かがまことの羊飼いかから離れて滅んでいくのを良しとしてはなりません。

結論：ヤコブはこの手紙をとおして、一貫してみことばを聞くだけではなく、行なう者になりなさい、と語ってきました。

ヤコブはイエス様を救い主として信じて義と認められた人々が、どのようにイエス様にお従いして歩むべきかをくり返し語っています。イエス様を信じて、神様との関係が回復された、罪赦された、永遠のいのちをいただいた、天国への切符をいただいたからもう安心とばかりに、そこに安住しているクリスチャンに対しての厳しい警告のように思われます。

イエス・キリストは必ず来られます。神の約束は必ず成就します。それがいつかは私たちにはわかりませんが、だからこそ、いつ来られても喜びお迎えできるように、この世の試練に耐え、自分の発する言葉に責任を持ち、言行一致の日々を過ごし、互いに祈り合い、愛をもって真理から離れようとしている人々を取り戻し、共に御国を受け継ぐ者としての恵みを体験できるよう、歩み続けていこうではありませんか。